

横浜キネマ俱楽部
第38号 会報
2015年2月28日発行

第38回上映会

標的の村

三上智恵監督作品
(2013年／日本／91分／ブルーレイ)



©琉球朝日放送.

2015年2月28日(土)

[上映時間] ①11:00~ ②13:00~ ③14:40~
[会場] 横浜市西公会堂

「ロビー交流会」
12:35~12:55

『標的の村』

沖縄本島北部に広がるヤンバルの森。東村・高江区は豊かな自然に囲まれた人口160人ほどの山村だ。その静けさを破るように、上空には頻繁に巨大な軍用ヘリが飛び交う。高江は戦後、国内最大の米軍専用施設、総面積7800haのジャングル戦闘訓練場に囲まれてしまった。ゲリラ戦やサバイバル訓練をする世界で唯一の演習場で、民家との間にはフェンスもなく、兵士が庭先に現れることも珍しくない。すでに今、戦場の中に暮らすような恐怖を味わっている高江の周りに、6つのヘリパッドが新設されるという。そこには、死亡事故の多い垂直離陸機・オスプレイも配備される。

高江に暮らす安次嶺現達さん、通称ゲンさんは5年前、突然国に訴えられた。家の近くにヘリパッドができては困ると座り込んだら、通行妨害の容疑で被告になってしまった。ゲンさんは高江の森に惚れ込んで10年ほど前に家族で越してきた。川に囲まれた手作りの家はカフェにもなっていて、ゲンさんの作る新鮮な野菜と妻の雪音さんが仕込む窯焼きパンが人気。そんな楽園のようなこの場所で6人の子供たちがのびのび育っている。しかしゲンさんは言う。「ヘリパッドができたら、もうここには住めない」。

ヘリパッドの新設を知った高江区民は2007年1月22日、那覇防衛施設局に抗議した。それに対して局員は「米軍の運用に関しては、日本側は関知できない」と突き放す。再三の反対決議も虚しく、一方的な工事の通告がされた。説明もなく、声も届かない。この年の7月2日から住民による建設現場での座り込みが始まった。

三上智恵監督プロフィール

1964年東京生まれ。父の仕事の関係で12歳から沖縄に通い、成城大学で沖縄民俗を専攻。卒業論文『宮古島の民間巫者に見る靈魂観～タマスウカビを中心に～』。アナウンサー職で大阪毎日放送(株)入社。8年後の1995年、琉球朝日放送の開局とともに両親の住む沖縄へ移住、第一声を担当。以来夕方ローカルワイドニュース「ステーション Q」のメインキャスターを務めながら(17年目)、取材、番組制作に奔走。沖縄民俗学の研究も継続し、放送業と並行して大学院に戻り、2003年春、沖縄国際大学大学院修士課程修了。修士論文『大神島における祭祀組織のシャーマニズム的研究』。同大学で沖縄民俗の非常勤講師も務める。ドキュメンタリーは主に沖縄戦や基地問題をテーマするが、サンゴの移植やジュゴンの文化を追いかけるなど海洋環境の保全と海をめぐる沖縄の文化をテーマにした番組も精力的に製作している。

(『標的の村』パンフレットより引用)

監督：三上智恵

統括プロデューサー：賀数朝夫

プロデューサー：謝花 尚

撮影：寺田俊樹

ナレーション：三上智恵

音楽：上地正昭

音声：木田 洋

編集：寺田俊樹、新垣康之

構成：松石 泉

題字：金城 実

タイトル：新垣政樹



©琉球朝日放送

.....アンケート集計結果.....

< 2014. 11. 24 第37回上映会 >

『ハンナ・アーレント』

来場者数 481名

アンケート総数 91枚(回答率18.9%)

作品についての評価・感想

「とても良かった」 43枚 47.3%

- 「ハンナ・アーレント」を見るのは3度目なり。初回ぜんぜんわからず。3度目によくわかつってきた。
- 初めて映画でハンナ・アーレントを知った。
- ハンナの頑張る姿勢に、自分も励まされた。「日常を深い考えを持ち、生きて行きたい」という思いを持ちました。
- 勉強になりました。
- 自分(たち)の中にもある「凡庸な悪」を見つめると、ただそれだけのことを、人々に理解されることがこんなに難しいのかということを、しみじみと思い知らされる作品でした。どっちが正義、という単純な対立構造から距離を置いた思考、議論を重ねていけない状況で戦争というものは起こるのでしょうか。
- 本を読んでいるので、よく理解できた。
- 情けと知とのぶつかり、どちらも大切なこと、だからどちらも最大限の努力で主張すべき、それを見せてくれた映画。
- “思考する事”的大切さ、“思考ストップした時の怖さ”についてとても深く考えさせられた。今の日本の状況は、大変危機的状態にあると思うので、選挙が控えている事でもあり、しっかり自分なりに考えて一票を投じていきたい。
- 「考える」ことを考えました。
- 考えて見ても、難しい問題でしたが、大切なことを又学びました。単純に考えても人間という存在、人種ということ、国とは、、など多くの事を考えさせられました。
- よい機会をいただきました。大変意義あるご活動かと思います。ありがとうございます。
- “無用なものに思いこませる”ことの恐ろしさを知りました。これはナチの時代でもなく、私たちの日常にも

まんえんしています。障害者や高齢者に対して…病人に対しても、こんな視線をあびていないだろうか。それも集団的思想として。思考を止めることが罪であることをシナリオで与えてくれてハット気づかされました。

- 深く施行することがないがしろになっている昨今なので、タイムリーな上映だったと感謝します。矢野先生の本も今年の夏に読んだばかりだったので、その点もタイムリーでした。裁判の映像(アイヒマンの発言)がもう少し多い方が良かったと感じました。大学でのスピーチは感動を覚えました。
- 自分は何も知らなかったんだなあ…と身につきました。
- ファン・トロッタの映画を久し振りに見れて良かった。(直接関係ないけれど、『風立ちぬ』のアニメや、宮崎駿さんの周りのように四六時中タバコの煙だらけなのが印象的でした。)
- 映画文化を継承する、地道な草の根の活動がこんなふうに行われていることに、感謝します。土曜は勤務でうかがえません。2日続きの「日・祭日」は、参加しやすいです。
- 難しい主題についていくよう必死で映画に向かいました。
- 考えることで強くなれる。そのとおりです。空爆をした兵士が家族との日常生活は全く別に平和に学んでいることなど。6回みたという人もいますが、くりかえし見るべき映画ですね。
- 岩波ホールに次いで2度目の観賞です。同胞友人からの誹謗中傷の嵐の中で、教室で講義するハンナ・アーレント。彼女の話す一言一言に耳を傾け、私は感動しました。一つの民族の枠にとどまらず人類のあるべき姿を教えていたのだと思いました。危機的状況にあっても考え方抜くことで人間は強く

なり破滅を防ぐ。私もそうありたいと強く思いましたし、今の日本でも最も問われるべきことだと感じました。

●本を読んでいたので理解しやすかった。読んでいなかった人にとって、講演は役立ったのではないでしょうか。ずっと見たかった映画でした。感謝!!

「良かった」 32枚 35.2%

●映画のテーマである「思考すること」ということを今の日本社会に当てはめて考えました。ネットなどで誰かが誰かを非難すると、自分自身でよく思考せず、自分の意見を深くほり下げることもなく、そうだと他人の意見に同調して大きな一つの意見となってしまう傾向があると思います。映画を通して得たハンナの知識をきっかけに、難しいと思いますが、文献を読んでみようという気持ちになりました。

●自分自身で考えて行動する事、又、教育を得て考える事が大切だと思いました。

●映画の中のタバコを吸うシーンがとても多く、教室でも吸うシーンが、映画のストーリーよりも気になりました。

●哲学的心理としては正しい。歴史的客観的事実だから。一方、現実的な心理としては間違っている。ナチスの被害を受けた人々がまだたくさん生存しているから。しかしながら、100年後ならば、現実的心理としても正しいだろう。けれども、遅かれ早かれ、この問題は誰かがこのように対決する時が来るだろう。それがアーレントだった。

●難解だったが良かった。

●ハンナ・アーレントの強い生き方に勇気をもらえました。

●J&Bでの上映時にも見ましたが、難しい内容でした。現在のヘイトスピーチをどう考えるかなど、自分自身の考え方を悩みます。

●全体主義という社会政治形態が恐ろしい悪のしくみを生み出したことが分かった。

●あなたはユダヤ人を愛しているかとの問い合わせに、彼女は人間を愛していると答えた。この映画のテーマはここにあります。世界中でこういう考えに至ればいいと思う。2度見て、今回でストンと心に落ちました。

●時流といふものと戦ったという感じですね。今なら、あれほどバッシングされなかつたのでは。確かに、今の状況のなじ崩しという言葉と重なっています。勇気を持って、意見を言うことが大切ですね。

●政治・戦争が絡む複雑な内容でしたが、この映画を通してよりそういったことに触れることが出来、良かった。

●「思考の大切さ」、「考えることで強くなる」は、心に響きましたが、アイヒマンを「悪の凡庸」で切り捨てるのは、あまりにも短絡的でないかと思う。アイヒマンの置かれている立場で自己の行っている行為は、自分が考えれば考えるほど身の毛がよだつことを凡庸であっても理解するはず。よって、思考も停止し、想像力も捨て、移送係に徹したものと考える。考える時間をたっぷり持つアーレントとは対照的な位置にいる。これは日本の太平洋戦争時にも似たような状況があったと考える。戦争指導者の元、善惡を思考することさえもできない状態に追い込まれ、民間人をも死に巻き込んで行く。このような状況の中では、思考することによって自己の弱い立場を認識するだけで「人間を強くする」とは相反することがある。現在のような戦争のない、平和なときに思考することと、想像力を働かせることが必要であると思います。

「普通」 3枚 3.3%

●私はタバコが嫌いなので、喫煙シーンばかりで少し気分が悪くなつた。作品と直接関係ないことですし、当時は喫煙が普通だったのでしょうが。



「あまり良くなかった」 1枚 1.2%

- むずかしかった。

「無印」 12枚 13.2%

●アイヒマンは命令に忠実に移送する。その先のことは考えない。思考停止。極悪非道な特別な人ではなく「悪の凡庸さ」をアーレントは見い出す。状況によってだれもがアイヒマンになる可能性がある。それが怖い。しかし、そのことに自覚的であることで、思考停止しないことで深く考えることで、悪に加担しないでいられるかもしれませんと思います。

●岩波ホールでは、2回共満席で入場できず、ジャック&ベティでのリバイバルは都合で観れず、あきらめていました。今日観ることができました。良かった。ありがとうございました。

●素晴らしい映画でした。矢野先生のお話があつてはじめて理解できたと思います。もう一度みたいです。



矢野久美子先生 講演の感想

●とても素直で、先生のハンナ・アーレントへの感動や情熱が伝わった。

●アーレントの数奇な人生やその思考力や事実の追求力がとても興味深かったです。彼女の視点は客観的に心理的であると思う。

●分かりやすくて良かった！

●わかりやすかったです。

●映画を見ながら感じていた疑問が永解しました。ありがとうございます。

●丁寧な語り口で判りやすかったです。上映後に講演を聞いたのでより判りやすかったです。もう一度著書を読み返してみたい。誰でもアイヒマンになってしまう可能性がある事を強く感じました。現在なぜアーレントが再び注目されているのかについての考えも聞かせて欲しかった。

●私はハンナをこれまで知りませんでした。朝日新聞をはじめ、これらの情報が思考のスタートになることがどれも重要だと考えます。

●今日の日本社会での、この映画の照らし出すものについての話を、もっとしっかりと時間をとって聞けたらよかったです。

●矢野先生のお話は、はじめておききました。娘がハイデガーをよく調べて居りましたので、今回の「ハンナ・アーレント」は、岩波で見過ごしましたので講演を楽しみにしていました。素敵なお先生ですね。

●大変興味深い内容でした。なしくずしということ、本当に考えなくてはいけないと思いました。

●矢野さんの著書を読もうと思います。

●より映画を理解することができました。

●ハンナ・アーレントに対する理解が深まった。

●映画でわからなかった部分を理解できました。

●ハンナの歴史がよく理解できました。

●現代日本社会に通じる考えが伝わった。ありがとう！

●講演者の熱意が伝わりました。解説があつて理解の助けになりました。

●講師の話のなかで、「もし移送係のアイヒマンがいなければ、死者もすくなかったのでは」と言われていたが、かわりの人間が出て同じような虐殺はあったはず。

●少し残念!!。本人の事とか主観が多かった。もう少しこの映画でわかりえなかった事などを考えるのにプラスとなる要素を話してもらえたより良かった。たとえば、ハイデガーがナチス寄りでした関わりの例とか、クルト(友人)(名前まちがえてたらすみません)との知りあってゆくときとか、親交の様子、ユダヤ人の人たちがどうしても受け入れられなかつた事の深い説明、アーレントのその後の様子など、、、。質問しようかとも思いましたが、翻訳された資料をさがしてみようと思います。

●明瞭に聞こえなかった。

●「人類に対する罪」を人類が裁判することの意味にふれてほしい。それは神しかいないということではないでしょうか。

●前半は、映画「ハンナ・アーレント」に迫まれる内容を期待していたので、矢野さん自身の話が多く、期待はずれでした。矢野さんはこの映画で何を感じとったのかが伝わってこなかった。残念です。イスラエルとドイツの関係などを知りたかった。

●最後の方、7~8分聞いただけの感想で申し訳ありませんが、言葉がボツボツと切れてとても聞きにくいお話をだと思いました。趣旨が伝わりにくいと思います。けつして滑らかに話すことに最善の評価を置くものではありません。

●補聴器をつけても、講師のコトバが聞き取れない難聴。話をFM波で流してくれるラジオで聞くことができます。希望。

☆アンケートご協力ありがとうございます☆



[[横浜キネマ俱楽部のページ]]

横浜キネマ俱楽部運営委員 2014年度 映画ベスト5 アンケート集計(参加者10人)

日本映画		外国映画	
順位	作品名	順位	作品名
1	小さいおうち	1	ジャージー・ボーイズ
2	そこのみにて光輝く	2	世界の果ての通学路
2	超高速！参勤交代	3	ストックホルムでワルツを
4	東京難民	4	インターミスチラー
5	ぼくたちの家族	5	浮城
5	蜩ノ記	5	6才のボクが、大人になるまで。

各賞

日本映画監督賞 山田洋次『小さいおうち』、佐々木清『東京難民』、呉美保『そこのみにて光輝く』
日本映画男優賞 竹野内豊『ニシノユキヒコの恋と冒険』、綾野剛『そこのみにて光輝く』
日本映画女優賞 松たか子『小さいおうち』、池脇千鶴『そこのみにて光輝く』

〈これまでの上映作品〉全41回 (特別上映会4回含む)

美しい夏キリシマ/パッチギ！/カーテンコール/二人日和/ゆれる/トリノ、24時からの恋人たち/
長い散歩/天空の草原のナンサ/イノセント・ボイス—12歳の戦場—/
モーター・サイクル・ダイアリーズ/恋するトマト/シッコ/歓喜の歌/赤い風船・白い馬/
三本木農業高校、馬術部/ラストゲーム～最後の早慶戦/マリア・カラスの真実/
ディア・ドクター/扉をたたく人/縞模様のパジャマの少年/春との旅/小さな村の小さなダンサー/
冬の小鳥/ホームカミング/ミツバチの羽音と地球の回転/デザートフラワー/
ハーモニー心をつなぐ歌/ドーバーばばあ織姫たちの挑戦/エンディングノート/
旅芸人の記録/トガニ/月世界旅行・メリエスの素晴らしき映画魔術/かぞくのくに/
警察日記/名もなく貧しく美しく/よみがえりのレシピ/きっと、うまくいく/日本の悲劇/
ペコロスの母に会いに行く/息子/ハンナ・アーレント

第39回上映会のお知らせ

日時:2015年5月30日(土)

①11:00 ②14:00

12:55~13:45 神山征二郎監督講演

入場料:チラシ、ホームページでお知らせします。

会場:横浜市西公会堂 045-314-7733

(横浜駅下車徒歩10分、相鉄線平沼橋駅下車徒歩8分)

『救いたい』

2014年/日本/110分/ブルーレイ上映

©2014「救いたい」製作委員会

監督…神山征二郎

原作…川村隆枝

脚本…古田求

製作総指揮…吉田尚剛

製作…鍋島寿夫



出演…鈴木京香・三浦友和・貫地谷しほり・渡辺大・土田早苗(友情出演)



麻酔科医は命を守るプロフェッショナル。あなたに代わってあなたの痛みに向き合います。

さまざまな記憶が交錯する東北の地で明日に向かって生きる人々の物語。

物語の主人公は、仙台医療センターで麻酔科医長を務める川島隆子。被災地で地域医療に従事する夫・貞一と支え合いながら仕事に邁進する彼女の周りでは、今日も多様なドラマが展開します。あの未曾有の災害から3年、町は前向きな笑顔であふれているかのように見えます。しかし、悲しい記憶が消えることはありません。病院の内外で繰り広げられる現実に対して、隆子と貞一は医師

として、友人として、隣人としてどのように向き合うのか。そしてお互いの人生にどう寄り添っていくのか。痛みを知っているからこそ、本当のやさしさ、強さを知る人々の再生の物語が今、始まります。(公式ホームページより引用)

<会員募集について>

2015年度の会員・賛助会員の募集については、追ってご連絡いたします。

よろしくお願いします。



〒231-0012 横浜市中区相生町1の15

第2東商ビル4階-C 労働市民法律事務所 気付

TEL:080-8118-8502 (10時~18時)

Eメール:yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp

HPアドレス:<http://ykc.jimdo.com>

横浜キネマ俱楽部会報

発行:横浜キネマ俱楽部